令和７年度第１回　市長と気軽にテーマトーク（市政懇談会）　要旨

１　日時　令和８年２月 22 日（日）午後２時 30 分から午後４時 20 分まで
２　場所　中央公民館　ホール
３　出席者
（１）　市　市長、副市長、総合政策部長、総合戦略推進室長、広報ブランド推進課（課長ほか２人）、秘書課（課長ほか１人）
（２）　参加者　15 人（おおむね 10 年以内に佐野市に移住してきた方）
４　テーマ　「佐野市への移住」

１　開会
２　市長挨拶
３　自己紹介・進め方の説明
４　市政に関する説明（市長から）
５　意見交換

○５意見交換における質問・回答等一覧

番号	参加者の質問・意見	市の回答・意見
1	佐野への移住者はＵターンが多い印象だが、一番望ましいのは外からの移住者を増やすことだと思う。近隣の商業施設と比べると佐野は規模が小さく、『佐野もいいけど周辺のまちでもいい』となることもあるので、佐野ならではの住むメリットを打ち出してほしい。佐野に住みながら近隣でショッピング、そして人口増で市内にも大規模店舗ができる、そんな好循環を期待したい。	（ご意見を伺った。）
2	佐野の人が当たり前だと思っていることが、移住者にとっては『すごいよね、いいよね』と感じることが意外と多い。しみじみと感じるタイプのものなので、アピールしにくいのかなと思う。	（市長） 暑さをデメリットからメリットに変換した提案をいただいた。今後の取り組みの参考にさせていただく。
	佐野市は日本有数の暑いまちといって差し支えないと思うが、これをまちづくりに	

	生かす方法はないか。夏にいろいろなところで行われている『水かけ祭り』を『日本一暑い』とか銘打ってやるのはどうか。やれば、訴求力も出るのではないか。	
3	２児の父親だが、佐野は暑さもあり、子どもが外で遊べる機会が減っている。空調の効いた屋内施設が増えていることは承知しているが、外は暑く子どもを遊ばせたり犬の散歩をしたりするのが難しい。佐野市で異常気象や気候変動への対応は喫緊の課題だと思うが、どのような優先順位で取り組んでいるのか。	（市長） 優先順位という形ではないが、 ① 子どもたち 市立学校のエアコンの整備状況だが、教室は整備済みだが、体育館は未整備である。暑さを考えると夏場に外での運動はさせたくない。体育館は避難所としての役割も担っており、今後、令和９年度までに全ての体育館にエアコンを整備する。 ② スポーツ施設 エアコン整備まで進めていないが、やり方を変えている。陸上競技大会を夜に開催するなど、昼間が暑い時期は夕方や夜に活動している。佐野の運動公園は優れた記録が出やすい施設として、国内トップクラスの選手も利用している。 ③ プール 屋外プールを整備するより、夏でも冬でも使える民間の屋内プールを借りる方が効率的であると考える。 ④ 遊び場 高萩のグランディ新都市セントラルパークを新しい遊び場として活用している。夏場の日中は遊具が熱くなるため、涼しい時間帯に使ってほしい。 今般の暑さ事情により、朝早く仕事を始めて、その分早く帰宅して子どもと遊ぶ時間を作るなど、生活様式を変える必要性もあるかもしれない。これまで、行政は会社の職場環境には関与してこなかったが、今後

		はそういう部分にも働きかけが必要かもしれない。 このほか、暑さ対策としてクーリングシェルターの取り組みは、行政だけでなく民間企業も巻き込みながら進めており、これを継続していく。
4	地元の方が地元の魅力に気づかないという話があったが、同感。以前、仕事で秋田を担当していた際に、地元の人が秋田の魅力に気づいていないと感じた。例えば、『雪が嫌だ』と言うことがあったりして。私は秋田に魅力を感じて、『ナマハゲ伝導士』という資格の認定試験を受けて合格した。地元の方はそういった資格の存在を知らないこともある。地域の魅力は移住者の方が敏感に感じる部分もあり、移住者の方がその魅力を発信するのに向いていると思う。先ほどの『水かけ祭り』の話もそうだが、地元の方だけではなく、移住者だからこそ気づける視点でアイディアを出し合えば、面白いイベントやまちづくりができるかもしれない。	（市長） 長く佐野で暮らしていると、見えるものが見えなくなってしまうことが多々あると感じる。移住者の方たちは、『当たり前』が違う目線を持っており、ぜひご協力いただきたい。
5	佐野にいると良いところが『当たり前』になっていると感じる。市長から４月から給食費が無償化される話があったが、ありがたい。近隣市では給食費を銀行に持っていくところもあるが、佐野市は振込みなのでありがたい環境だと気づけた。周囲の自治体の話を聞くと、『佐野市は市民に配慮してくれているのだな』と感じ、お礼を言いたい。	（市長） 気づいていただき、ありがたい。サラリーマンだった頃、関東のどの都県にも住んだり勤めたりしていて、インフラ系の会社でまちづくりをつぶさに見てきた。一方で、佐野市ではなかなか希望する職業に就けない現状も感じている。全国的な傾向だが、20 代・30 代の女性の流出が顕著で、そういった年代の皆さんが佐野市で仕事を持てるような環境づくりにも力を入れていきたい。
6	グループで SNS などを使って、佐野の魅力を発信する取組をしている。市は、若い方からの意見や要望を把握しているか。	（市長） 意見については、大人だけでなく、中高生や短大生、この間は小学生がプレゼンテー

		ションをして話を聞かせてくれた。情報発信については、高校生の『sanoteens』というグループが熱心に取り組んでいて、市も支援している。
7	佐野の医療機関は充実していると思う。都内では小児科の予約が取れず、取れても移動や待ち時間で大変だが、佐野では車内でインフルエンザやコロナウイルスのチェックが完結するので、とても安心感がある。クリニックが充実していると感じている。	（市長） 医療のお話をたくさん拝聴できて参考になった。佐野市では佐野厚生総合病院が二次救急医療機関として急性期を担い、慢性期は佐野医師会病院が役割を果たしている。奥佐野には診療所が５つあり、これらをなくすつもりはない。診療所は地域住民の情報交換の場としても重要である。これまでに引き続き、佐野市民病院や佐野厚生総合病院等と連携し、中山間地域の医療の隙間を埋める取組みを行い、地域医療を保っていくので、医師会・歯科医師会・薬剤師会の皆さんとも意見交換をしている。
	ただ、大きな病院では非常勤の先生が多くて相談しづらい現状がある。大きな病気をしたときには心配で、常勤の医師を増やしていただければありがたい。	
	私は移住後に重い病気を患い、一時は『東京の方が専門の医療機関も多く、常勤の医師も多いし良かったかな』と思うこともあった。幸いにも佐野厚生総合病院の担当医が親切に手配していただいたことで安心して治療に専念でき、完治した。結果的に『佐野に来て良かった』と思えたが、やはり常勤の先生が多いと患者さんの安心感につながると思う。	
	私は医療機関に勤めているが、この規模の自治体で佐野厚生総合病院は非常に充実した医療機関だと感じている。大学病院では『中レベルの病気』を診てもらえないことがあるが、佐野厚生総合病院は簡単な手術が必要な症状などを積極的に診てくれるので、市民が病院へ行くハードルを下げ、安心感にとても貢献していると思う。	
8	高齢の母がいるが、忙しくてなかなか病院に送っていけない。都内なら公共交通機関が充実しておりどこへでも行けるが、佐野	（ご意見を伺った。）

	では車がないとどこへも行けない。タクシーは台数が少なく、デマンド交通は使い方が分からない。子どもの習い事などもそうだが、公共交通の充実はとても重要だと感じている。	
	公共交通に関連して、佐野駅に行こうとするとバスの本数が少なく、自転車などで行くしかない。以前住んでいた愛媛県今治市では『モビ』という交通サービスがあった。スマホアプリや電話で呼べる定額制の乗り合いタクシーのようなもので、バスよりは高いけれどタクシーよりは安かった。今治市は佐野市と人口規模が同じくらいで、モビは地元の方も観光客も使えてすごく便利だった。	
9	班長の仕事で広報紙を配っている。広報紙面には毎回同じようなことが書かれていて、見ていてつまらない。市長が話されたような良い情報がたくさんあるのにあまり認知されていない。せっかく印刷物を作るなら良い情報を積極的に上げてほしい。読んで楽しい広報紙を作れば、もっと認知されていくと思う。	（市長） 広報紙は、令和５年度に思い切り変えた。広報ブランド推進課が広報紙を作っており、皆さんの意見も取り入れていきたいと思う。
10	『さのまる健康アプリ』を使っている。ランキングが出るが、2,000 人中 300 位くらい。佐野市の人口規模で利用者が 2,000 人というのは、もう少し多くてもいいのかなと思う。このアプリには、面白い要素がいろいろあり、ランキングを広報紙やホームページで発表するなど、競争心を少し煽ってみるのはどうか。そうすることで、アプリやコンテンツがもっと市民に使ってもらえるきっかけになると思う。	（市長） アプリを使い、毎日、最低でも 6,000 歩以上は歩いている。このアプリは、他の自治体でも使っており、他の自治体との比較なども今後やったら面白そうだと思う。
11	市長の話に『市民が検診を受けてくれない』というような話があった。財政事情は無視して話すが、皆さんが大手の決済サー	（市長） いろいろな課の事業にさのまるペイを活用することを、来年度から積極的に行って

	ビスを使っており、地域通貨の活用に持続性を持たせることはなかなか難しいと思う。検診を受けたら『さのまるペイ』を付与するような取組があると良いと思う。市民の健康づくりとさのまるペイをうまく組み合わせたら一石二鳥かなと思う。	いく。
12	市長から話のあった『シニア世代の活躍』『今活』だが、興味を持って聞いた。私たちシニアにとって、お金よりも人とのつながりの方が幸せを感じる。地域のコミュニケーションが促されるような取組や環境づくりを市がしてくれると安心して暮らせる。	（市長） ３世代が一つ屋根の下で暮らすのは難しい世の中になってしまったと感じている。お裾分け文化も消えかけているが、私は勝手に『日本お裾分け文化協会会長』を名乗っており、こういう文化を復活させたい。ご近所で足りないところを補い合い、人とのつながりを生かして、地域の中で３世代が安心して暮らせるようにしていきたい。

※参加者の質問・意見、市の回答・意見ともに、要約して掲載しています。